

豊かな言語力を育てる低学年の詩の指導の工夫

1. 設定の理由

入学して間もない子どもたちと関わり合う中で、語彙の少なさを感じることもある。しかし、子どもの表情や子どもたちどうしの会話を聞いていると、子どもたちの中には感じたり想像したりする基礎的な力は備わっているように感じた。そこで、感じる力や想像する力を大切にし、言語力をより豊かに楽しみながら育てていくことはできないかと考えた。

教科書内において子どもたちが初めて出会う詩が、まど・みちおの「あいうえおのうた」である。初めは読めなかった児童もリズムのある詩が耳に残り、音読練習をする中で、次第に暗唱する児童まで出てくる。詩は、文字・音・リズム・比喻などを知る他に、物の見方・考え方・感じ方などを豊かに広げる良さがある。このような詩の特徴から、詩に対する関心を高め、事象を見つめる目を育て、思いついたことを率直に表現形式や文体にこだわらず書かせるようにした。この学習から、日常生活の様々な機会を捉えて、詩を読んだり書いたりすることを積み重ねていくようにする。そのようにすれば、児童が感じたことや想像したことを自由に表現することの楽しさを味わい、言葉の力を高めていくことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2. 研究の目的

低学年における詩の学習を通して、自ら言葉を選び、感じたことや想像したことを表現することに喜びを感じ、進んで創作しようとする児童を育成する。

3. 研究の内容

① 研究主題に基づいた年間指導計画の設定

② 段階的な言語活動の授業実践について

・音読、お気に入りの詩の視写、視写を中心とした書き換え活動、創作活動

4. 結論

○年間を通して計画的に詩に触れさせたり、日常生活の様々な機会を捉えて表現形式や文体にこだわらず自由に書かせたりすることで、表現することの楽しさを味わうことができた。

○お気に入りの詩の視写や創作した詩を互いに読み合うことで、友だちの作品に刺激を受け、創作活動への意欲を高めることができた。

○これまでの活動を振り返ることで、自分の成長を感じることに繋がった。また、友だちや保護者から、よさを認めてもらうことで、書くことへの自信をつけることができた。

1 研究主題

豊かな言語力を育てる低学年の詩の指導の工夫

2 設定の理由

入学して間もない子どもたちと関わり合う中で、語彙の少なさを感じることもある。例えば、道で見つけた草花を、私に渡そうと摘んでくる。嬉しそうな表情でそっと差し出された草花を見て「先生にくれるのかな。」「うん。」「どこで見つけたの。」「道。」「可愛いお花だね。」「うん。」という会話がなされる。しかし、子どもの表情や子どもたちどうしの会話を聞いていると、子どもたちの中には感じたり想像したりする基礎的な力は備わっているように感じた。そこで、感じる力や想像する力を大切に、言語力をより豊かに楽しみながら育てていくことはできないかと考えた。

本学級の児童は、入学当初より本に関心があり、空いている時間があると本を読み始める児童が多い。そこで、4月当初から詩に多く触れる機会を設けた。詩は短いながらも、日本語の面白さや表現上の工夫を学ぶことができる。低学年の児童も、想像しながら十分に楽しめる。しかし、低学年で詩の指導をした際に、詩の形式に捉われ、型にはめて指導をしたことがある。その時、私は児童の手から作品を離してしまっているように感じていた。

教科書内において子どもたちが初めて出会う詩が、まど・みちおの「あいうえおのうた」である。初めは読めなかった児童もリズムのある詩が耳に残り、音読練習をする中で、次第に暗唱する児童まで出てくる。詩は、文字・音・リズム・比喩などを知る他に、物の見方・考え方・感じ方などを豊かに広げる良さがある。このような詩の特徴から、詩に対する関心を高め、事象を見つめる目を育て、思いついたことを率直に表現形式や文体にこだわらず書かせるようにした。

この学習から、日常生活の様々な機会を捉えて、詩を読んだり書いたりすることを積み重ねていくようにする。そのようにすれば、児童が感じたことや想像したことを自由に表現することの楽しさを味わい、言葉の力を高めていくことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

低学年における詩の学習を通して、自ら言葉を選び、感じたことや想像したことを表現することに喜びを感じ、進んで創作しようとする児童を育成する。

4 手立て

- ・年間を通してたくさんの詩に触れさせる。
- ・子どもの意欲を大切にしながら、音読、お気に入りの詩の視写、視写を中心とした書き換え活動、創作活動と段階を踏んで言語活動にとりくませる。

5 研究実践

(1) 年間指導計画について

学習過程	時期	目標	○主な学習活動と内容 ◎評価
詩の読み聞かせ 音読	4 月	・ 詩の読み聞かせを聞いたり、詩のリズムや言葉の響きを楽しみながら、全員で音読したりすることができる。	○ 1 週間に 1 編の詩を朝の会の音読の時間で声に出して読む。 ○ 先生のおすすめの詩を 1 日 1 編紹介する。 ◎ 意欲的に詩の音読をすることができたか。
お気に入りの詩で乗作り	5 月 (国語 1 時間) 6 月	・ お気に入りの詩の視写をし、創作することへの意欲を高める。	○ 学級文庫に置かれている詩集を読むことで多くの詩と出会う。 ◎ 多くの詩を読み、お気に入りの詩を見つけて視写することができたか。
視写を中心とした書き換え活動	7 月 (国語 2 時間) 書き換え	・ 視写を中心とした書き換え活動を通して、詩に親しむことができる。	○ 言葉集めをし、簡単な詩を作る。 ◎ 進んで言葉集めをし、詩を作ることができたか。
お気に入りの詩や創作活動による詩集作り	9 月～ (国語 2 時間) 2 月 (国語 3 時間) 創作活動	・ 詩集や友だちの作品を進んで読み、意欲的に創作活動にとりくむことができる。 ・ 言葉や絵を書き加えながら楽しむことができる。	○ お気に入りの詩の視写と創作活動を行う。 (工藤直子「のはらうた」まどみちお「くまさん」金子みすゞ「わたしと小鳥とすずと」など) ◎ お気に入りの詩や創作活動を意欲的にとりくむことができたか。 ◎ 感じたことや想像したことを言葉や絵にして表現することができたか。
カレンダー作り	1 2 月 (国語 1 時間) 1 月 創作活動	・ 季節を想像し、その時に思ったことを短い言葉で表現して楽しむことができる。	○ 1～12 月の季節に合わせた詩を書きカレンダーを作る。 ◎ 季節を想像しながら、季節に合った言葉で表現して楽しむことができたか。
詩の交流	3 月 (国語 1 時間)	・ 互いの作品を読み合いよさを見つけることができる。	○ 詩集として作品をまとめる。 ○ 友だちどうして作品を読み合い、よいと思ったところを伝え合う。 ◎ 友だちの作品を読み、よさを見つけ伝えることができたか。
学習を終えてからの振り返り活動	(国語 1 時間)	・ 学習を振り返り、成長を感じることができる。	○ 一年間の言葉の成長の証として、保護者にも読んでもらう。 ○ 一年間の学習を振り返り感想を書く。 ◎ 一年間を通して詩に親しみ成長を感じることができたか。

(2) 具体的な実践について

詩の読み聞かせ・詩の音読 (4月)【資料1のP.1】

多くの詩と触れ合うためのきっかけとして、朝の会の音読の時間を用いて、詩を紹介した。そして、紹介した「のはらうた」や、まど・みちおの「ぞうさん」などの詩を全員で音読した。詩の多くがひらがなで書かれているため、ひらがなを習いたての児童も読むことができた。担任の後からの繰り返し読み、慣れてきたころに一斉読み、詩の長さによっては一行ずつ個人読みをするなど様々な読み方で音読した。子どもたちは詩に合わせて体を動かし詩の音読を楽しんでいた。詩に興味を持ち始めたころ、教室に詩の本を掲示し、いつでも子どもたちが好きな時に詩を読めるようにした。



(詩に合わせて体で表現している様子)

お気に入りの詩で葉作り (5・6月)【資料2のP.2】

5月末頃になると詩の本だけではなく、物語の本を読む児童が増えてきた。徐々に詩の本を読もうとする児童の姿は見られなくなってきた。しかし、この時期の国語の学習では、まど・みちおの「あいうえおのうた」や「がぎぐげごのうた」などの詩が教材にあり、入学当初より、まど・みちおの詩にも親しんできた児童たちは「あっ、まど・みちおだ!」「知ってる!」といい、強い興味・関心を示した。また、音読練習も積極的に行い、ほとんどの児童が暗唱できるまでになった。再び詩に関心を持ち始めた児童の実態に応じて、お気に入りの詩を見つけ、本を読むときに使う葉を作る活動を行った。葉作りをしていく際にお気に入りの詩を書くだけではなく、その詩に合わせた絵を想像して書き添える児童もいた。友だちと同じ詩であっても絵は異なり、子どもたちは、それぞれの想像を楽しんでいるようであった。

素敵な葉が完成したため「おうちの人にプレゼントしたい。」という児童の声が上がり、プレゼント用にも作った。「お母さんならこの詩を喜ぶだろう。」といって、好みに合いそうな詩を選んで楽しんでいた。



(葉作りをしている様子)

視写を中心とした書き換え活動 (7月)【資料3のP.3】

音読や、お気に入りの詩での葉作りなどを通して詩に親しんできた子どもたち。そこで、「詩をかいてみよう。」と言ったとき、ほとんどの子どもの表情は硬く「難しそう。」という反応で、音読をしたり、お気に入りの詩の視写をしたりしているときとは全く違う反応であった。子どもたちにとって書くという活動は、上手に書かなくてはいけないという緊張が走り、身構えてしまっているように感じた。そこで、詩作りの入門として詩(ことばあそび)の視写を中心とした書き換え活動を行った。

あをつくものは、なんだろな。〇〇です。〇〇です。〇〇〇です。

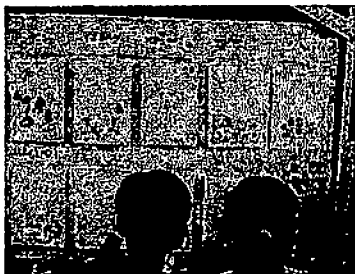
いをつくものは、なんだろな。〇〇です。〇〇です。〇〇〇です。・・・

黒板に書きながら全員で考えた。

いをつくものは、なんだろな。いぬです。いろです。いんくです。・・・

簡単に、出来上がる詩に、子どもたちは「おもしろい。」「自分でも作ってみたい。」という声が上がった。子どもたちの詩を書くことに対する関心が高まってきたところで、書き換え活動を行った。中々思い浮かばない言葉は、周りを見渡して何かないか調べたり、教科書や本を読んで調べたりしながら、どの児童も言葉を集めて作ることができた。その後、詩の発表会を行った。歌っているように読まれる詩を聞いて、自然と子どもたちの中から笑いが起こった。言葉のおもしろさを体感し、リズムに乗って声にすることの楽しさを実感することができたようである。

お気に入りの詩の視写と創作活動による詩集作り (9～2月)



(休み時間に詩の掲示コーナーに集まる様子) (詩をまとめて本作りをしている様子)

「おれはかまきり」
かまきりりゅうじ
おう なつだぜ
おれは げんきだぜ
あまりちかよるな
おれの こころも かまも
ときどきするほど ひかっているぜ
おう あついで
おれは がんばるぜ
もえるひを あびて
かまをふりかざす すがた
わくわくするほど きまってるぜ
工藤直子 1984: 70 頁 のはらうた!

2学期になり、子どもたちに工藤直子さんが書いたかまきりりゅうじの「おれはかまきり」という詩を、かまきりりゅうじになりきって読み聞かせた。すると、子どもたちは、かまきりりゅうじの独特な言い回し(～だぜ。)を気に入ったようで、笑いがおきた。その後、子どもたちに「ごっこ遊びみたいに何かになりきって詩を書いてみよう。」という、「やってみよう!」という反応があり、初めての創作活動が始まった。【資料4のP.4 資料5のP.5】

A児 「とら」 みんなたべてやるぜ おれはいちばんの 王さまだぜ おれのかみがた かっこいいぜ (9月)	B児 「ぼんだ」 ぼんだが あるいていったら のはらがあった そこで ぼんだが あそんでいた そこで ぼくはいった ぼくも いっしょに あそびたい いいかなあ いいよ ぼくきのぼりする ぼくもいっしょにやるよ そして きのはっぱを たべた (9月)	C児 「おはな」 わたしはのはらに すんでるわ おともだちも たくさんいるわ かぜがふくと きもちいいの ときどきのはらに にんげんのこどもたちが あそびにきて そのこどもたちの えがおが すてきでね わたしも あそびたくなるわ ぼかぼかたいうも びかびかひかる とってもきれいな えがおよ だから みんなも あそびにきてね (9月)
---	---	--

A児は、国語の学習が苦手な、進んで何かを書くことはなかった。しかし、毎日の生活における発見や感動は、進んで話しに来る児童である。6月に雨が降った時には、「先生。今日は雨だね。雨の音が聞こえるよ。ぴちゃん。ぴちゃん。ぴちゃん。」と雨粒のように飛び跳ねながら、雨の様子を表していた。創作活動が始まると「ぼくは、とらになる!」と言って、書き始めた詩は、かまきりりゅうじの詩を真似しながら進んで書くことができた。ひらがな

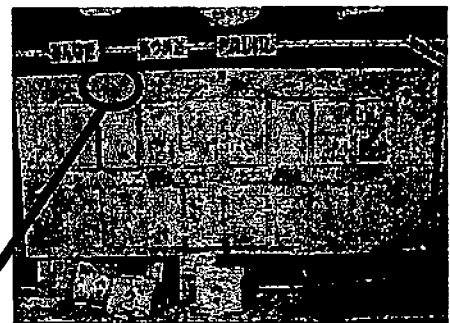
が思い出せないときは、隣で教員が書いて見せることで安心して学習にとりくめていたようであった。その後の活動では、お気に入りの詩の視写をすることに励んでいた。お気に入りの詩を見つけ、字を正しく写し取り、絵を描いて表現する。読むこと・書くことが苦手な児童もお気に入りの詩を視写することは自分の力でできるため、達成感をもってとりくんでいた。

B 児は9月頃、物語を書くように詩を書いていた。2学期から3学期にかけて詩を書くにつれ、リズムがよくなり、物の見方や感じ方に変容が見られた。

B 児の作品

ともだちなかよし いつもいっしょ なかよいいっしょ かぞくいっしょ ぜったいいっしょ いなくなってもいっしょです みんないつもいっしょです (10月頃)	くものつぎは あめでした あめのつぎは ゆきでした ゆきのつぎはサンタです プレゼントをもって よいしょ こらしょ もう12月25日です おもいおもいにもつね (12月頃)	ほしぞらたくさん ほしならび せいざがたくさん 見られたよ となかいみたいな せいざが1こ あさになっても まだ見える こんどは月が見えて みんなといっしょに そらひかる (1月頃)	ひかるゆめ いい気持ち 見えないひかり どこにいる？ きらきら とおくに いっちゃった どこにいくのか わからない？ (2月頃)
---	---	--	---

2学期になり子どもたちがいつでも詩を書けるように、たくさん用紙を用意した。多い時には1日のうちに30枚近くの用紙が使われることもあった。B 児も進んで創作活動にとりくんでいた一人である。毎日たくさん作られる子どもたちの詩を、朝の会で少しずつ紹介をしていった。「リズムがいいね。」「季節に合った詩でいいね。」「時計で詩を書いている、面白いね。」など、その詩の面白いところ、素敵などころを伝えた。紹介されたときの得意げな表情がどの子も印象的である。その後、自分が書いた詩を皆にも読んでほしいとあったので、教室内に詩の掲示コーナーを作った。そのコーナーのタイトルは『みんなであつめたたのしいし～ちいさなしじんたち～』。「みんなであつめたたのしいし」は、子どもたちが考え、「ちいさなしじんたち」は、「一人ひとりが素敵な詩を書く詩人になってほしい。」という教員の願いを伝え、付け足した。(それぞれの掲示フォルダの上には児童のペンネームが書かれている。)



(詩の掲示コーナー)

教員の願い通り、子どもたちは詩人となっていった。お気に入りの詩の視写を楽しむ児童もいれば、創作活動を楽しむ児童もいた。B 児は主に創作活動を楽しむ中で、掲示された友だちの詩を休み時間の度に読んだり、時折、お気に入りの詩の視写を行ったりしていた。

B 児は学習の最後に、「詩を50個くらい書けて嬉しかったです。皆の本を読んでみたら、素敵な詩がたくさんありました。2学期、3学期でこんなに詩が書けたんだなあ。と思いました。おうちでも、詩を書いてみたいです。」という感想を書いている。そこには、多くの詩を書いたことへの達成感や、継続してとりくもうとする意欲が表れていた。

C児は、はじめて詩を書いた時から豊かな表現で詩を書いていた。

「もうすぐはるだね」 はるっていいね ぽかぽか あったかい てんとうむしさんも あげはちょうさんも うさぎさんも ねこさんもでておいで みんなでいっしょにあそぼう とってもとっても たのしいね	「ながれぼし」 わたしほし いつもみんながとびたつけど わたしはとびたてない じゅんぴができていないから よし じゅんぴかんりょう わたしも とびたつ きらきらり	「まめ」 わたしまめ いつもきょうだいと いっしょにいるの おまめの中で すうやすや 「あっ！きょうだいが！ でも だいじょうぶ。」 からだのなかで あえるから	「みらいにむかう」 みんな みらいに むかって はしってゆく それを見ながら ゆっくりと はしっていく
---	--	---	---

初めの頃は、ごっこ遊びのように何かになりきって書いていた詩であったが、自分の心の内を表現するような詩も書いていることに驚いた。

書くことが苦手は児童は、真似しながら書き、書くことが得意な子は、さらに豊かな表現を用いて創作にとりこんでいた。そして、それぞれのペースで、詩集や、自分たちの作品と向き合いながら、進んで表現することを楽しんでいた。

活動の最後に子どもたちが書いた詩を、それぞれ一冊の本にしてまとめた。その本に付けられた題名にも児童の思いが込められていた。

詩集本（題名の理由）

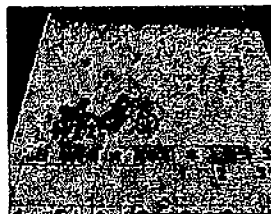
みんなの本	自分が頑張って作った詩の本をみんなに見てほしいから。
じぶんだけの本	自分で書いた大切な詩の本だから。
かわいい本	かわいい詩をいっぱい集めたから。
わたしのしの本	私の作った詩が入っているから。
すてきな本	自分ですてきな詩をいっぱい書いたから。
せかいに一つだけの本	ぼくが書いた詩と同じものを書いた人はいないから。
しじんの本	自分が詩人になっていっぱい書いたから。
ひかる本	毎朝、学校に来てすぐに書いた詩がいっぱいあるから。
きれいな本	自分の詩が集まってきれいな詩の本になったから。
一つだけの本	すばらしい本で一つだけしかないから。
一つだけのしの本	自分にしか書けない詩の本だから。

カレンダー作り（12・1月）【資料6のP.6】

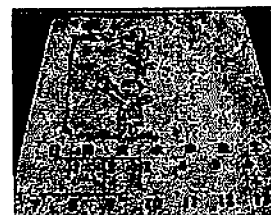
12月になり、来年のカレンダー作りを行った。1月は正月、2月は節分、3月は卒業式、4月は入学式、5月はこどもの日、6月は梅雨、7・8月は夏について、9月は秋について、10月はハロウィン、11月は冬について、12月はクリスマスで詩を書く児童が多かった。それぞれの季節の情景を思い浮かべながら書かれた詩や詩集から選んで書かれた詩はどれもよく書けていた。カレンダー作りをしながら、季節感も学ぶことができたように感じる。



（カレンダー作りをしている様子）



（梅雨を想像して選んだ詩）



（こどもの日を想像して創作した詩）

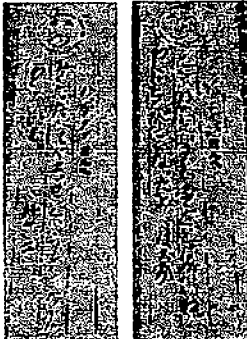
詩の交流 (3月)

授業計画

3 本時の指導

(1) 目標 互いの作品を読み合いよさを見つけることができる。

(2) 展開

時配	学習活動と内容	教員の働きかけ・指導上の留意点(○) 個への支援(※) 評価(◎)	教具資料
10分 一斉	1 本時の課題をつかむ。 ○児童が書いた詩を例として、よいと思ったことを発表する。 「おはな」 わたしはのほかに すんでるわ おともだちも たくさんいるわ かぜがふくと きもちいいの ときどきのほらに にんげんのこどもたちが あそびにきて そのこどもたちの えがおが すてきだね わたしも あそびたくなるわ 「ぽかぽか」「ぴかぴか」 「きれいな」 とつてもきれいな えがおよ だから みんなも あそびにきてね 「ひろげる」 みんながいつせいに 手をひろげたら 空もいつしよに まねしたよ そしたら ぜんぶのくにが まねしたよ くくく わらって くくく いっしょにわらって おもしろい 「おはな」を読んで ・「ぽかぽか」「ぴかぴか」「きれいな」という言葉がよかったです。 (どんな太陽、光、笑顔なのかが、よく伝わってきますね。) ・お花になりきって書けていていいですね。 「ひろげる」を読んで ・詩に合った題名でいいですね。 ・くくくが繰り返してあって、本当に笑っているみたいでいいね。	○全員で詩を共有できるように、資料を提示する。 「おはな」 わたしはのほかに すんでるわ おともだちも たくさんいるわ かぜがふくと きもちいいの ときどきのほらに にんげんのこどもたちが あそびにきて そのこどもたちの えがおが すてきだね わたしも あそびたくなるわ 「ぽかぽか」「ぴかぴか」 「きれいな」 とつてもきれいな えがおよ だから みんなも あそびにきてね ※児童の発言が伝わりにくい場合は、言葉を付け足し要約する。 ○「いいね。」だけではなく、どんなところが良かったのか理由も述べさせる。	拡大コピーした児童の詩
25分 個人	みんながかいたしの いいところさがしをしよう。 2 創作した詩を読み合う。 ○友だちどうして作品を読み合い、よいと思ったところを書く。 ・「みんなたべてやるぜ」というところがこわくていいね。 ・「にじのはしがかかった」ということばがすてきだね。 ・ひかりでしをかいたんだね。ほっとするしだね。 ・「とぶのがだいすき」ってことばがいいね。わたしもとびたくなったよ。	○よいと思った理由を明確にすることを確認する。  ☺ すてきだね。 ○ おどろいたよ。	児童が書いた詩集 ワークシート

		※書くことが苦手な児童は、詩の中から気に入った言葉だけを書いて良いことを伝える。 ◎友だちの作品を読み、よさを見つけ伝えることができたか。	
10分 一斉	3 学習の振り返りをする。 ○友だちからの感想を読み感じたことを発表する。 ・「かがやいている」とか「きれい」ということばがいいねといわれうれしかったです。(自分が考えて選んだ言葉を友達が褒めてくれると嬉しいね。) ・ともだちが心をこめてかいてくれて、うれしかったです。	○詩の学習を通して、多くの詩に触れ、創作できたことを称賛し今後の学習への意欲付けを図る。	

A 児は「おはな」の詩を読むと「ぼかぼか・ぴかぴか・きれいなという言葉がよかったです。」という感想を話した。単に「太陽が光る」となるよりも「ぼかぼか太陽が、ぴかぴか光る」となる方が、より情景が伝わってくる。このような表現の工夫を感じ取れるようになったことにも A 児の成長を感じた。

学習を終えてからの振り返り活動 (3月)

子どもたちに「1年間、詩のお勉強でしたことを振り返って感想を書いてみよう。」というと全員が一斉に書き始めた。その感想からは、詩を書いて楽しかったこと、繰り返していくうちに書けるようになったことへの喜びが書かれていた。【資料7のP.7】

感想を書き終わると、子どもたちから「うちの人にも読んでほしい。」という声が上がったため、読んでもらうと同時に、ひとこと感想をいただくことにした。おそらく、土曜日・日曜日を使って親子で詩集を読んだことだろう。保護者の感想からは、子どもの成長を素直に喜ぶ気持ちが読み取れた。学校にその感想が書かれた紙を持ってくると、「褒めてもらって嬉しかった。」と喜ぶ子どもたちの姿があった。



(振り返りをしている様子)

児童の感想	保護者の感想
1 先生にほめられてうれしかったです。はじめはかくのがあまりすきじゃなかったけど、 <u>しをかくのはたのしかったです。</u> ぼくは、かまきりりゅうじのしがすきです。	詩に触れ合うのは、とても良いことだと思います。これからも、たくさん読んでください。
2 しの本をよんで、金子みすゞの本がすきでした。しをかくときに <u>しにあったえをかくのがたのしかったです。</u> <u>カレンダーづくりやしおりづくりやさいごに自分の本ができてとてもうれしかったです。</u>	詩の学習は「1年生ではまだ難しいかな…」と思っていましたが、しっかりと表現されていて、絵も色遣いがカラフルで表情も良く描けていて驚きました。国語の世界が広がったようで嬉しく思います。
3 はじめはしをしらなかったです。しはおもしろいしもありました。 <u>しをかくのはたのしいです！じぶんでかくのがいちばんおもしろかったです。</u> とくに、金子みすゞの本がおもしろいです。	詩とはいえ、文章をここまで書けるようになっていくことに感動しました。

4 いっぱいしづくりをしました。 <u>しの中でも「つきのひかり」というじぶんのしがいいな</u> と思いました。 <u>また、じぶんのしをつくりたいです。</u> しを本からとるときは、「くまさんまどみちお」という本からいっぱいしをかきました。	想像力豊かにどの詩も書けていて素敵でした。絵もとっても上手に描けましたね。
5 わたしは、 <u>のはらうたのしや金子みすゞさんのしをすき</u> になりました。 <u>たくさんしがあつまってうれしかった</u> です。 <u>また、しをつくってみたい</u> です。	素敵な詩ばかりです。きれいに絵も描けました。
6 <u>さいしょはすくなかったけど、どんどんいっぱいにな</u> ってうれしかったです。 <u>えや文をかくときに上手にかけま</u> した。 <u>さいごに本をつくってよむことができてうれし</u> かったです。	すごく素敵な詩でびっくりしましたよ。上手にできたね。
7 はじめは、ちゃんとかけるかどうか心配だったけど、 <u>かいてみたらじぶんが花やお日さまになりきってかく</u> ことができてうれしかったです。	とっても上手に書けていてびっくりしました。□□の書く詩を読むと元気をもらえます。表現力に感心します。
8 <u>しの本をよんでかいたり、じぶんでしをつくったりして</u> たのしかったです。 <u>いろいろなしをかいてしの本をつ</u> くったのがたのしかったです。 <u>いろいろなどうぶつ</u> のしをつくれておもしろかったです。	とっても素敵な詩が書けていてびっくりです。□□の優しさが出ていてほっこり温かい気持ちになりました。
9 <u>しの本をよんだら、しがたくさんあってびっくりしま</u> した。 <u>しをかくときにおもしろかったところは、えをかく</u> ところです。 <u>わたしは、金子みすゞのしがおもしろ</u> かったです。	詩を読みその詩を想像しながら絵を描いたことがとてもすごいなと感心しました。また、本人も詩に挑戦し、言葉や表現などを学ぶことができ、とてもよかったと思います。これからも、たくさんの詩と触れ合ってほしいです。
10 <u>ぼくはしの本をつくりました。</u> さいしょはどきどきしたけど、 <u>がんばってみて「いいな」とおもうし</u> ができました。	リズムカルに楽しい詩が出来ましたね。読んでいて楽しくなりますね。
11 <u>しの本に金子みすゞがあつたので、ぼくはたくさんつ</u> くりました。 <u>金子みすゞのしがおもしろ</u> かったです。 <u>たくさんしをかいてたの</u> しかったです。 <u>またやりたい</u> です。	1年間たくさんの詩を読んだり自分で書いたりしてがんばりましたね！
12 <u>しをよんでみたら、ペンギンちゃんのしやくまさんのし</u> がかわいかったです。 <u>わたしはしをかいてみたらあまり</u> 上手じゃなかったけど、 <u>だんだんうまくかけるよう</u> になってきてので、うれしかったです。	素敵な詩集でびっくりしました。金子みすゞの詩がたくさんあって好きなのがよく分かりました。お母さんは□□の作った「こねこ」が大好きです。
13 <u>しを50こくらいかけてうれしかった</u> です。 <u>みんなの本をよんでみたら、すてきなしがたくさんあり</u> ました。「2がっき、3がっきでこんなにしがかけたんだなあ。」と思いました。おうちでも、しをかいてみたいです。	楽しい詩がたくさんできました。□□らしさが出ている、ほっとする詩集だね。
14 はじめてしをつくったとき、 <u>かんがえるのがむずかし</u> かったです。でも、 <u>だんだんなれて</u> きました。私は、あまのがわあずきさんの「ほしふるよるに」という詩がすきでした。 <u>しのえをかくのがたの</u> しかったです。	こんなにたくさんの詩をかいたことにびっくりしました。と同時にいろんな発想があることに感動もしました。言葉や自然の表現がとても成長したのではないかと思います。
15 <u>2がっきははじめてしをか</u> きました。はじめは上手くできませんでした。でも、 <u>3がっきになってたく</u> さんで <u>きるようになってうれ</u> しかったです。本ができて、みなおしがたいへんでした。2年生になってもつづきたいです。 <u>いままでやってたの</u> しかったです。	どれもとっても上手に書けていました。これからもいろんなことをたくさん感じてほしいです。
16 <u>しはこんなにたのしいとおも</u> いませんでした。さいしょは、 <u>みかんのしでたく</u> さんかきました。あと、 <u>えもかくの</u> をがんばりました。 <u>たの</u> しかったです。□□ちゃんのしを見たら、 <u>すごく上手</u> でした。 <u>また、おうちでし</u> をつくってみたいです。	子どもの発想は豊かだなと思いました。子どもの可能性は無限大。

成果と課題

(1) 成果

- 年間を通して計画的に詩に触れさせたことで、感じたことや想像したことを表現する楽しさを、味わうことができた。
- 自作の詩集をみんなで読み合い交流したことによって、作品の良さに気づき、リズム・詩の表現の面白さを感じることができた。
- 児童が書いた詩を教室に掲示することによって、相手意識を常に持ち、書いたものを互いに読み合い、友だちの作品に刺激を受けながら新たな詩を作り表現することを楽しんでいった。
- 本を読んだり書いたりすることが苦手な児童もいたが、詩の音読やお気に入りの詩の視写をしたことによって、ひらがなで書かれた短い詩を自力で読むことができるようになり、本に親しむきっかけとなった。
- これまでの活動を振り返ることで、自分の成長を感じることに繋がった。また、友だちや保護者から感想をもらったことで、書くことへの自信をもたせることができた。

(2) 課題

- 交流して感想を伝え合う場をより多く取り入れていくことで、自作の詩を振り返り、さらなる表現の工夫に生かすことができたであろう。
- 年間を通して活動したことで様々な成果が見られた。そのため、学年が変わっても継続していく必要がある。

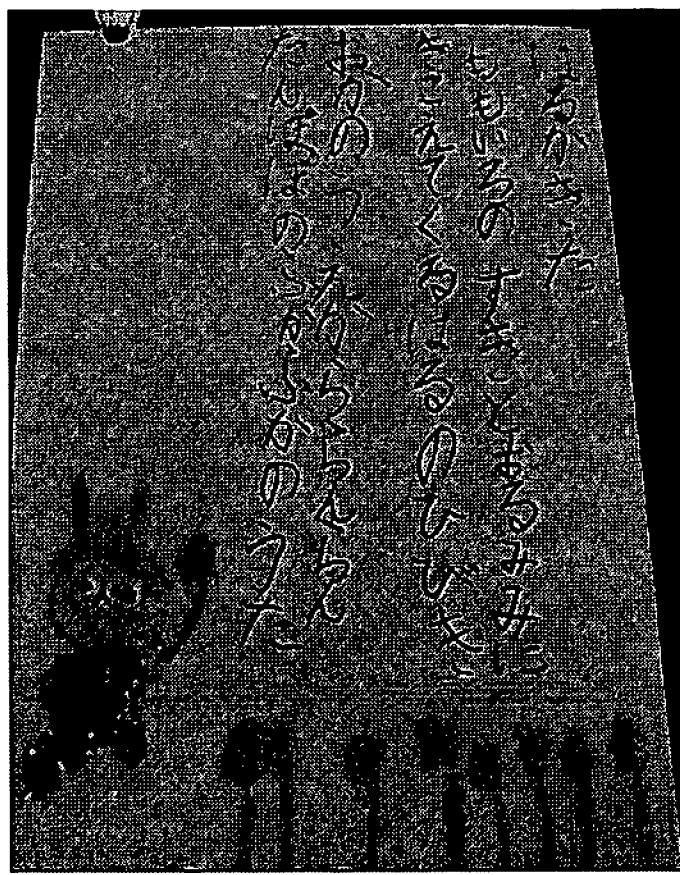
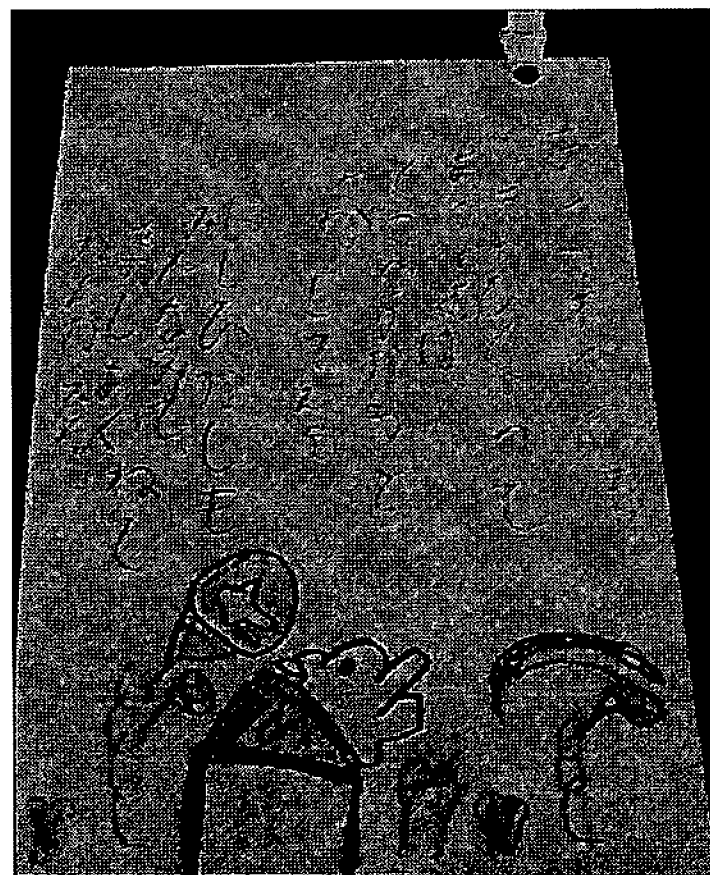
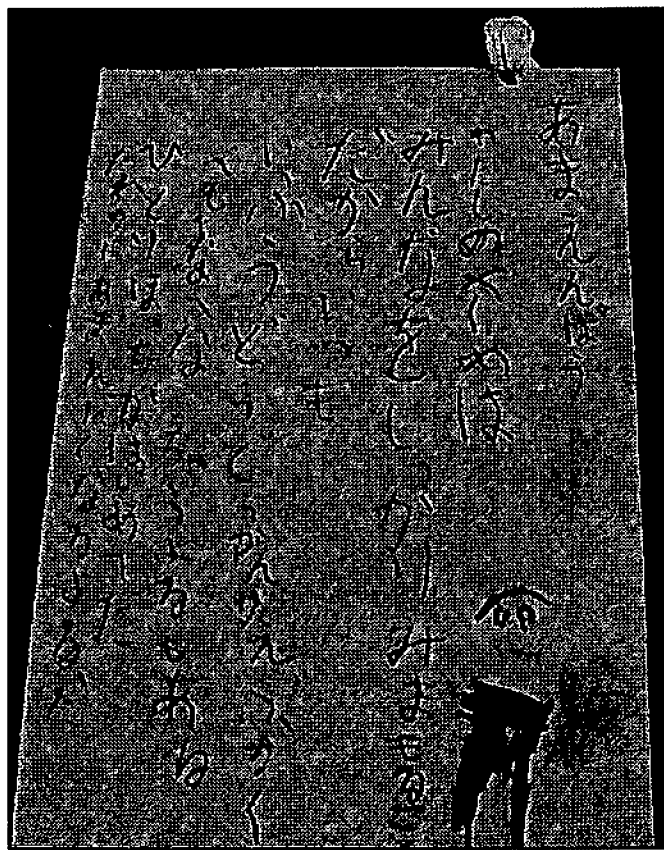
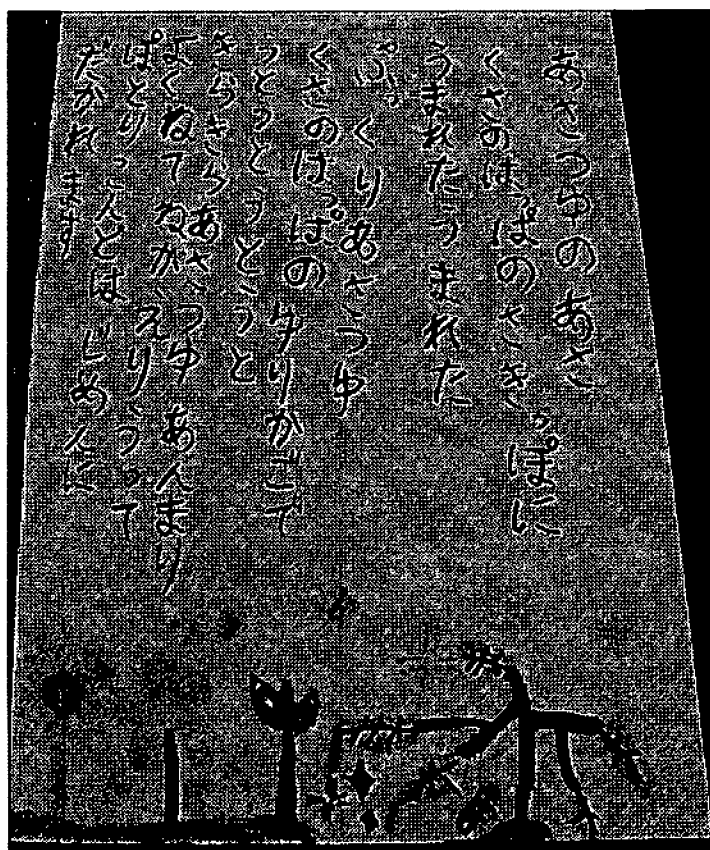
参考文献

- 『教室に広がる詩の世界 アンソロジー作りから翻作・創作へ』卯月啓子著 東洋館出版社
『ことばがひろがる！』卯月啓子・首藤久義共著 東洋館出版社

資料

資料1 子どもたちが読んだ詩の本

書名	作者名	発行所
のはたうたⅠ	工藤直子	童話屋
のはらうたⅡ	工藤直子	童話屋
のはらうたⅢ	工藤直子	童話屋
のはらうたⅣ	工藤直子	童話屋
のはらうたⅤ	工藤直子	童話屋
わっしょいのはらむら	工藤直子	童話屋
あっぱれのはらうた	工藤直子	童話屋
絵本のはらうた	工藤直子	童話屋
わたしと小鳥とすずと	金子みすゞ	金子みすゞ詩の絵本 みすゞこれくしょん(金の星社)
明るいほうへ	金子みすゞ	金子みすゞ詩の絵本 みすゞこれくしょん(金の星社)
ふしぎ	金子みすゞ	金子みすゞ詩の絵本 みすゞこれくしょん(金の星社)
おさかな	金子みすゞ	金子みすゞ詩の絵本 みすゞこれくしょん(金の星社)
星とたんぼぼ	金子みすゞ	金子みすゞ詩の絵本 みすゞこれくしょん(金の星社)
おどる詩 あそぶ詩 きこえる詩	はせみつこ・編 飯野和好・絵	富山房インターナショナル
しゃべる詩 あそぶ詩 きこえる詩	はせみつこ・編 飯野和好・絵	富山房インターナショナル
くまさん	まど・みちお	童話屋
まどさん100歳100詩集 まど・みちお詩の本	まど・みちお	理論社
谷川俊太郎少年詩集 どきん	谷川俊太郎	理論社
谷川俊太郎詩集	谷川俊太郎	理論社
子どもといっしょに楽しむ ことばあそびの詩100	水内喜久雄・編	たんぼぼ出版
教室でよみたい詩12か月 小学校1・2年	水内喜久雄・編	民衆社



資料3 視写を中心とした書き換え活動で作った
言葉あそびの詩

たちつてとのし

たのつくものはなんだろな たいです たきです たいこです
ちのつくものはなんだろな ちりです ちびです ちからです
つのつくものはなんだろな つちです つの です つくしです
てのつくものはなんだろな てきです てつです てがみです
とのつくものはなんだろな とりです とらです とうふです

たちつてとのし

たのつくものはなんだろな たにです たこです たいやです
ちのつくものはなんだろな ちりです ちばです ちりとりです
つのつくものはなんだろな つりです つるです つりばしです
てのつくものはなんだろな てつです てんです てんきです
とのつくものはなんだろな とらです とちです とまとです

たちつてとのし

たのつくものはなんだろな たけです たいです たいこです
ちのつくものはなんだろな ちずです ちばです ちりとりです
つのつくものはなんだろな つきです つるです つくしです
てのつくものはなんだろな てつです てらです てじなです
とのつくものはなんだろな とりです とらです とけいです

たちつてとのし

たのつくものはなんだろな たねです たるです たんぼです
ちのつくものはなんだろな ちりです ちずです ちくわです
つのつくものはなんだろな つりです つなです つくしです
てのつくものはなんだろな てらです てつです てぶくろです
とのつくものはなんだろな とりです とらです とうふです

さしすせそのし

さのつくものはなんだろな さめです さけです さくらです
しのつくものはなんだろな しかです しまです しもんです
すのつくものはなんだろな すしです すそです すいかです
せのつくものはなんだろな せみです せんです せんろです
そのつくものはなんだろな そらです そりです そおだです

さしすせそのし

さのつくものはなんだろな さるです さめです さかなです
しのつくものはなんだろな しろです しみです しりもちです
すのつくものはなんだろな すみです すずです すいかです
せのつくものはなんだろな せみです せんです せんろです
そのつくものはなんだろな そりです そらです そろばんです

さしすせそのし

さのつくものはなんだろな さばです さいです さばくです
しのつくものはなんだろな しかです しばです しんぼるです
すのつくものはなんだろな すずです すしです すいかです
せのつくものはなんだろな せみです せきです せっけんです
そのつくものはなんだろな そらです そばです そうじです

かきくけこのし

かのつくものはなんだろな かめです かさです かめらです
きのつくものはなんだろな きじです きすです きつねです
くのつくものはなんだろな くまです くりです くじらです
けのつくものはなんだろな けんです けちです けむしです
このつくものはなんだろな こっきです こい です ことりです

かきくけこのし

かのつくものはなんだろな かすです かみです からすです
きのつくものはなんだろな きすです きみです きかいです
くのつくものはなんだろな くきです くみです くすりです
けのつくものはなんだろな けすです けつです けしごむです
このつくものはなんだろな こい です こまです こっきです

かきくけこのし

かのつくものはなんだろな かきです かさです からすです
きのつくものはなんだろな きくです きんです きこりです
くのつくものはなんだろな くまです くきです くすりです
けのつくものはなんだろな けんです けたです けむしです
このつくものはなんだろな こまです こし です ことりです

かきくけこのし

かのつくものはなんだろな かめです かきです かめらです
きのつくものはなんだろな きくです きすです きつねです
くのつくものはなんだろな くきです くつです くすりです
けのつくものはなんだろな けつです けんです けんかです
このつくものはなんだろな こい です こまです こっきです

かきくけこのし

かのつくものはなんだろな かみです かすです かがみです
きのつくものはなんだろな きじです きすです きりんです
くのつくものはなんだろな くきです くりです くじらです
けのつくものはなんだろな けんです けがです けんかです
このつくものはなんだろな こまです こい です こおりです

かきくけこのし

かのつくものはなんだろな かきです かずです かえるです
きのつくものはなんだろな きずです きすです きのこです
くのつくものはなんだろな くつです くりです くるまです
けのつくものはなんだろな けんです けるです けいとです
このつくものはなんだろな こまです こやです ことりです

なにぬねののし

なのつくものはなんだろな なすです なしです なっとうです
にのつくものはなんだろな にわです にくです にんじゃです
ぬのつくものはなんだろな ぬまです ぬの です ぬりえです
ねのつくものはなんだろな ねこです ねじです ねんどです
ののつくものはなんだろな のりです のみです のらねこです

あいうえおのし

あのつくものはなんだろな あめです あきです あひるです
いのつくものはなんだろな いすです いしです いちごです
うのつくものはなんだろな うしです うちです うさぎです
えのつくものはなんだろな えきです えりです えんとつです
おのつくものはなんだろな おにです おの です おぼけです

あいうえおのし

あのつくものはなんだろな あめです あさです あひるです
いのつくものはなんだろな いすです いしです いんこです
うのつくものはなんだろな うしです うまです うきわです
えのつくものはなんだろな えきです えびです えんとつです
おのつくものはなんだろな おにです おの です おにぎりです

うさぎ
わたしは とおくのこえが
よくきこえる
わたしが びよんびよん
はねるのが だいすき
わたしは あかじめをしているの
とぶことが とっても
だいすきよ

らいおん
おれは あさごはんは にくだけ
おれは いのししのにくを
たべるぜ
あさから にくなんて
すごいだろ
おれは どうぶつのなかで
いちばんの おおさまだ
おれはどうぶつのなかで
いちばんつよいんだ

チーター
ぼくは チーター
はしるのが いちばん
はやいんだ
だから はしるのが
だいすきなんだ

うさぎ いつもたんけんをし
ている
もういつびきのうさぎと
いっしょに
たんけんしました
すずしくて
きもちくて
つめたくて
にんじんが おいしい

チーター
おれは いちばん はやいぜ
みんなも ぬかせるぜ
おれは はしるのが
すきだぜ

りす
どんぐりみつけた
たくさんみつけた
もってかえって
たべよう
たべよう
きょうのごはんは
いっぱい
おいしいな
おいしいな
やっぱりどんぐり
すきなんだ
いっぱい たべたら
おひるね おひるね
どっちもすきだな

いちご
いちごたちの
うたごえがきこえます
きれいな うたごえが
きこえるぞ
どうぶつたちは
たべたがつています
どうぶつたちが
たべたいな
といたけど
まだ うたごえが
きこえています
それでも ひとくち
たべてみると
うまい おいしい

パンダ
パンダが おさんぼしていたら
はなのみちを みつけました
そこで あそんでたら
わたしも
あそんでいい
いいとも いいとも
おはなのかんむりつくるの
わたしも
さいごにかれはを
たべました

みかん
みかんころころ ころがつてる
みかんのなかから こえがする
たべられちゃうよ
どうしよう
こそこそ それいいね
でもそれだと
かわをむかれちゃうたら
たべられちゃうよ
そっか なんとんと
でも だいじょうぶ
なんで
だっておいしくたべてもらうから
そうだね
うんうん いいね いいね
わたしも そうおもったんだけど
みんなはなしを してたから
しつれいだとおもって
いかなかった
みんなは なそうよ
かなしいこといつてたら
せかいじゅうのみんなが
かなしくなっちゃうから
みんなであのしくはなそうよ
うんうん わかった

ばんだ
ばんだが あるいていたら
のはらがあつた
そこで
ぼんだが あそんでいた
そこで
ぼくはいい
ぼくも いっしょに あそびたい
いいかなあ
ぼくきのぼりする
ぼくも いっしょにやるよ
そして きのはつばを たべた

おはな
わたしはのはらに すんでるわ
おともだちも たくさんいるわ
かぜがふくと きもちいいの
ときどきのはらに
にんげんのこどもたちが
あそびにきて
そのこどもたちの えがおが
すてきでね
わたしも あそびたくなるわ
ぼかぼかたいうも
びかびかひかる
とつてもきれいな えがおよ
だから みんなも
あそびにきてね

たつ
おれはたつだぜ
みんなをびつくりさせると
みんながにげるぜ
おれはつよいぜ
おれはらいおんより つよいぜ
まわりのどうぶつが
にげるくらい つよいぜ
いろんなやつと たたかたら
みんなしぬぐらい つよいぜ

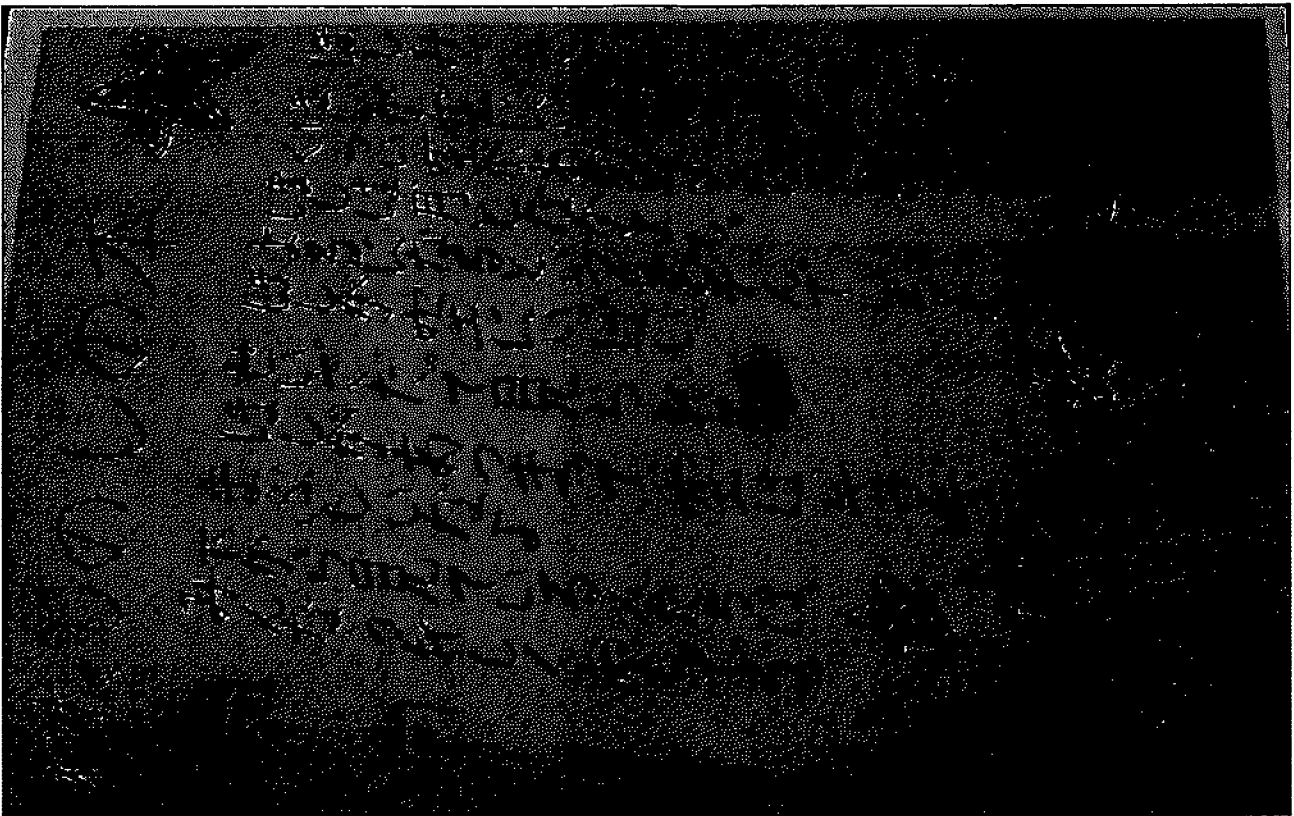
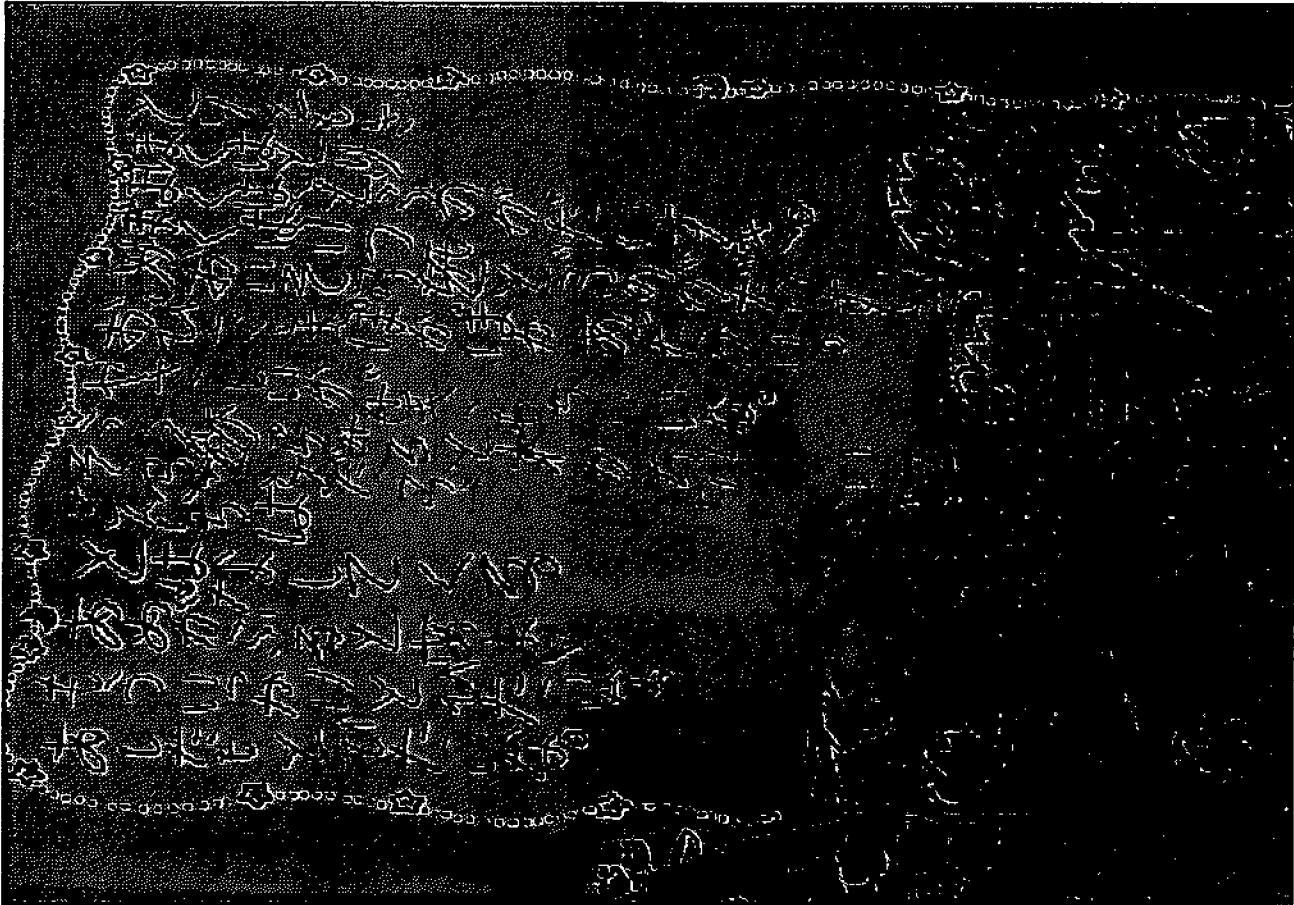
とり
ぼくは とり
ぼくは とぶのがだいすき
ぼくは いつも
あおいそらをとぶのが
だいすき
おひさま ぼかぼか あつたかい
やさしいかぜ きもちいいな
うえからみると 木がちいさいな
そらをとんだら
かぜが
こんには
とはなしてくる
あめが ふると あまやどり
もういつかい とびたいな
あしたも とびたいな

ねこ
わあ わたしより
でかいねこがいる
にやあとなく
でかいねこ
こんにちは
わたしの なまえは
にやあ よろしくね
わたしはこわいの
にがてだから
やさしくしてね

とら
みんなたべてやるぜ
おれはいちばんの
王さまだぜ
おれのかみがた
かっこいいぜ

うさぎ
わたしはうさぎ
びよんびよんはねるのが
だいすきな
あつときは たくさんはねて
あそんでいるの
わたしの とくぎは
もちろん とぶこと
おひるになったら
だいすきな にんじんとか
きやべつを たべるんだあ

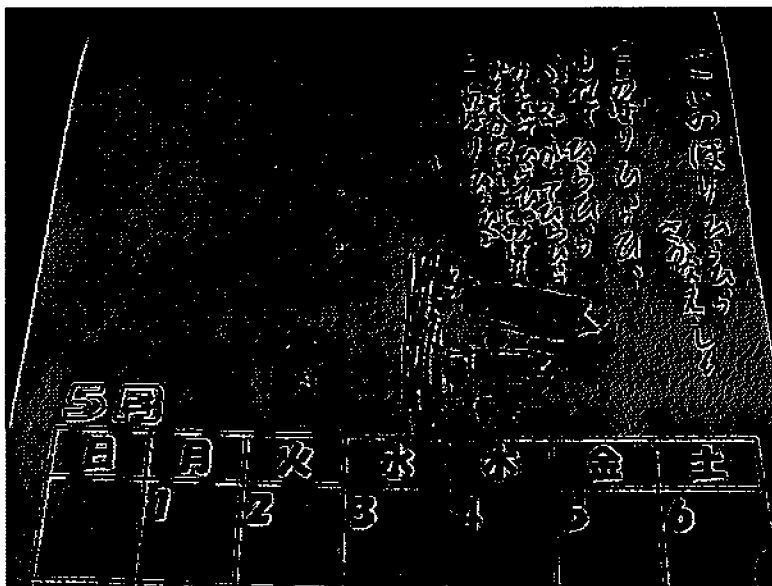
いぬ
ぼくは
はやいよ
げんきだよ
ぼくは
おいしいものが
だいすき
おさんぼするの
も
だいすき
だつて ぼくは
いぬだもん





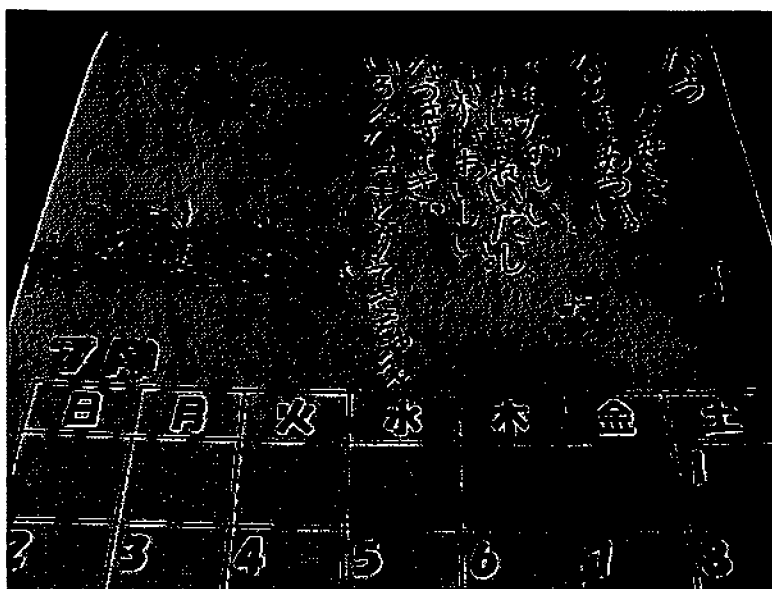
「入学しき」

入学したら
どんなことを
するんだろう
どんなことを
おしえてもらうんだろう



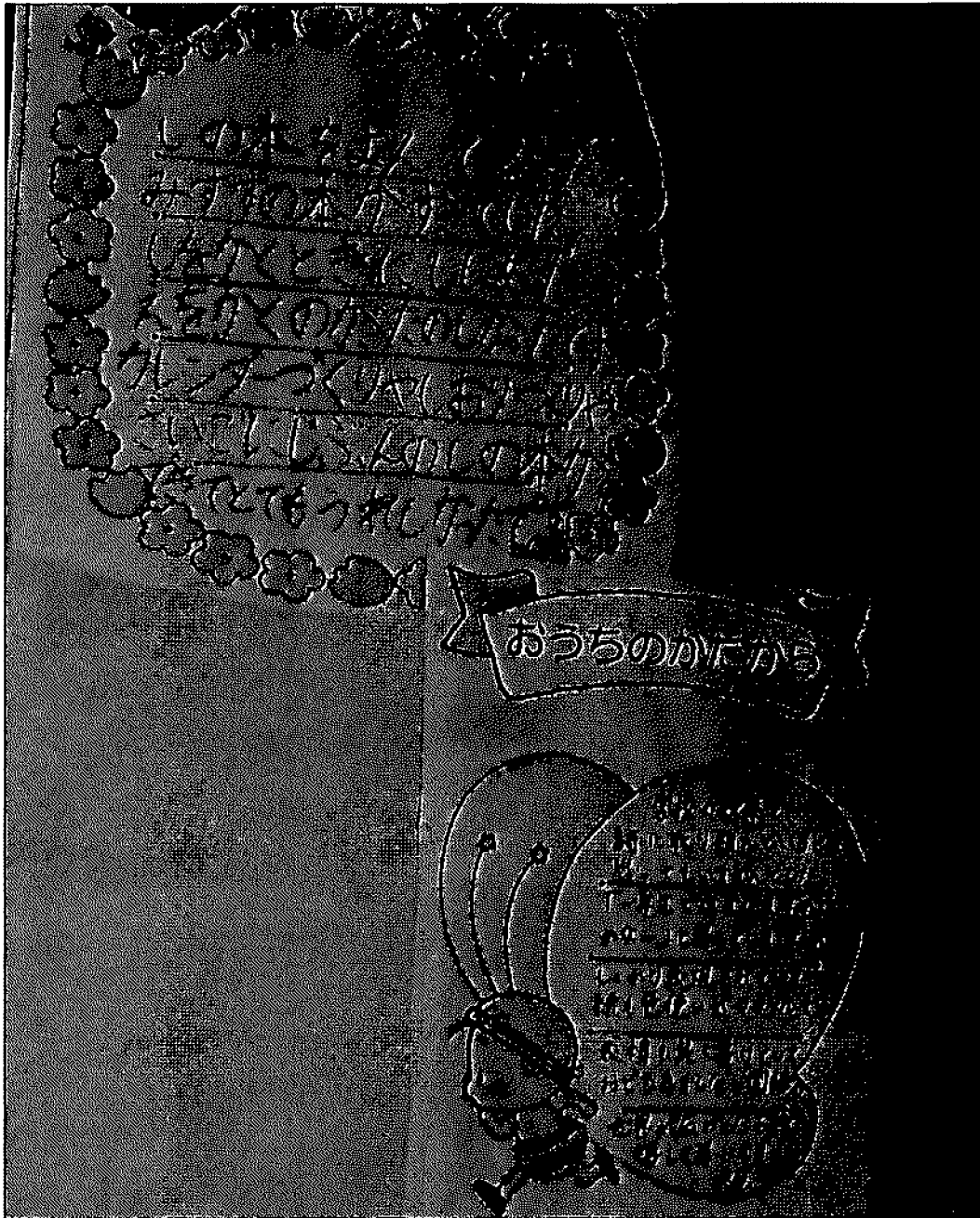
「こいのぼりひらひら」

こいのぼりひらひら
ゆれてひらひら
ぶらさがってひらひら
みんなでひらひら
みんなかわいいこいのぼり
こいのぼりひらひら



「なつ」

なつは あつい
でも たのしい
うみは きれいだし
すいかは おいしい
なつは すてき
いろんなことが できちゃう



児童の感想	保護者の感想
しの本をよんで、金子みすゞの本がすきでした。しをかくときにしにあったえをかくのがたのしかったです。カレンダーづくりやしおりづくりやさいごに自分の本ができてとてもうれしかったです。	詩の学習は「1年生ではまだ難しいかな…」と思っていましたが、しっかりと表現されていて、絵も色遣いがカラフルで表情も良く描けていて驚きました。国語の世界が広がったようで嬉しく思います。